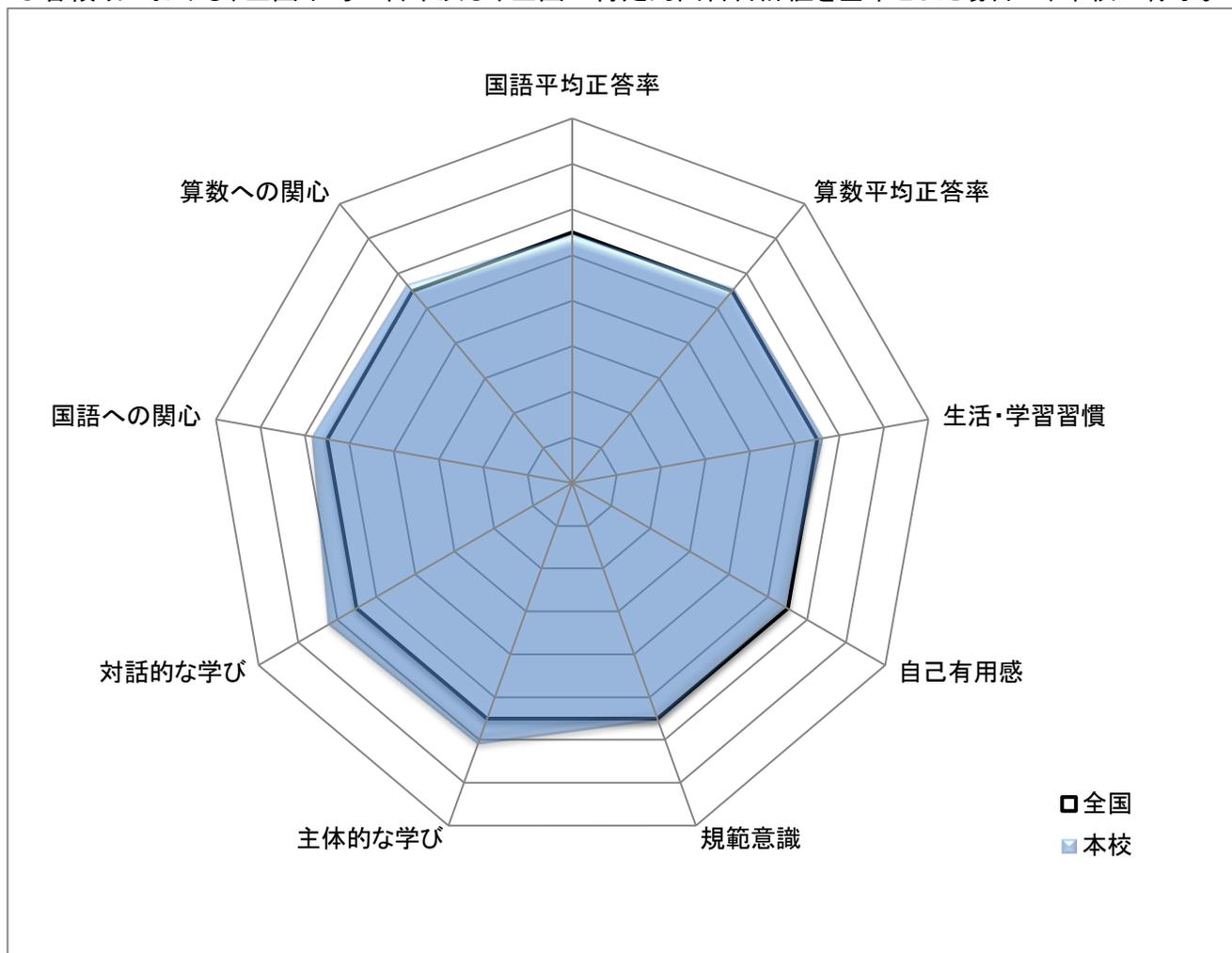


●各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《現状把握》

- ・国語、算数ともに、基本的な知識が確実に身に付いている。
- ・基本的な知識を活用した問題に対応する力も付いてきている。
- ・「主体的な学び」の項目では、自分の考えを発表する場面で、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表できる児童が全国平均を大きく上回っている。
- ・全体的に応用力に課題があるため、継続して指導する必要がある。

《授業改善のポイント》

【国語】

- ・図書室の有効活用を進め、読書の時間を通して文章や文字に触れる機会を増やし、言語能力を高める。
- ・パンフレットやポスターを書く単元では、実物を見せ、どんな内容が書かれているかを比較し、情報を捉える指導を行う。

【算数】

- ・問題文から分かっていることと問われていることを整理し、具体的な場面や形を想像できるように読解力向上に重点を置く。図形の性質の本質や作業方法などを理解し、解決していく活動を取り入れるようにする。

【全教科に関わること】

- ・児童の疑問を生かし、調べ、まとめ、発表する学習を行う。その中で、どのように発表したら、相手に伝わるのかを考えさせる場面を設定する。
- ・学校行事や縦割り班活動などで、児童が自主的に活動できる場面を設定する。

《チャートの特徴》

- ・算数は全国平均正答率をわずかに上回り、国語はわずかに下回った。
- ・「主体的な学び」「対話的な学び」は昨年度の数値を大きく上回り、日常の学習の姿が反映されている。
- ・「国語への関心」(50)～(52)の項目がどれも90%以上と関心をもって学習していることが分かる。
- ・前年度、課題であった自己有用感の項目(6)、(8)が80%と向上した。
- ・前年度、突出していた生活・学習習慣が今年度は伸び悩んだ。

《家庭・地域への働きかけ》

- ・家庭でも自分の考えを話すこと、相手の話を聞く姿勢を意識するよう促す。
- ・「規則正しい生活習慣」「学習習慣」を身に付ける大切さを引き続き継続して指導していく。
- ・応用力を養うため、家庭で普段の生活の中で「自分で考える」習慣を身に付けさせるよう促す。